

令和4年度研究プロジェクト研究概要報告

研究種別	■自主研究 14	公益目的事業 19
主査名	苦瀬博仁 東京海洋大学名誉教授	
研究テーマ	都市・地域分野におけるロジスティクス研究の役割と範囲	
研究の目的： <p>ロジスティクスでは、企業活動における商流と物流を対象としているが、交通論や経済学をはじめとして、都市・交通計画、経営学やマーケティング、医療や災害など、さまざまな学問分野と密接な関係にある。</p> <p>本研究プロジェクトの目的は、学際分野であるロジスティクス研究の特徴を、周辺研究分野との比較の中で明らかにすることで、ロジスティクス研究の特徴と役割について明らかにすることである。</p>		
研究の経過（4月～9月）： <p>本研究プロジェクトでは、今年度5回の研究会を実施した（第1回：2022年6月9日、第2回：2022年7月26日、第3回：2022年9月5日、第4回：2022年11月1日、第5回：2022年12月9日、いずれも会議室・Zoom 併用）。</p> <p>第1回研究会では、主査（苦瀬）が、研究プロジェクトの応募用内容と、本研究プロジェクトの目的、問題意識、取組内容について説明した。そして、研究メンバー間の意見交換をおこなった。</p> <p>第2回・第4回研究会では、研究メンバーによる研究報告とそれにもとづく議論をおこなった（第2回研究会のテーマ：地域都市計画とロジスティクス、東京都市圏物資流動調査の検討で見えてきている物流の課題、第4回研究会のテーマ：健康と労働に関する最近のアプローチ、防災物流に関する検討業務および研究に関する紹介）。</p> <p>第3回・第5回研究会では、外部講師を招き、ロジスティクスについて多面的に俯瞰した議論をこころみた（第3回研究会のテーマ：物流自動化・デジタル化への先端技術と課題、第5回研究会のテーマ：ジャーナリストの立場から国内市場の縮小と今後の物流を考える）。</p>		
研究の成果（自己評価含む）： <p>本研究では、第一に、学際分野としてのロジスティクスの重要性を論じるとともに、ロジスティクスの質的な変化にもとづき社会的価値を重視するロジスティクスが注目されていることを述べている（報告書第1章、苦瀬）。</p> <p>第二に、都市計画からみたロジスティクスについて、国土計画・地域計画・土地利用計画・市街地整備計画などにおける物流計画の変遷と将来のあり方について明らかにした（報告書第2章、大門）。</p> <p>第三に、地域計画からみたロジスティクスについて、東京都市圏における物流の動向と今後の課題について明らかにした（報告書第3章、剣持）。</p> <p>第四に、労働問題の分野からみたロジスティクスについて、トラックドライバーに着目し、健康リスクや労働災害の実態と将来の課題について明らかにした（報告書第4章、井出）。</p> <p>そのほか、外部講師による講演から得た知見についてまとめている（報告書付録）。</p>		

令和4年度研究プロジェクト研究概要報告

今後の課題：

今年度（令和4年度）は、主として都市計画、地域計画および労働問題の観点からロジスティクスとの相互関係についての解明を進めた。来年度（令和5年度）は、災害（地震、洪水、コロナなど）を研究対象とする防災計画や、観光・文化（観光地、神社仏閣、イベント、冠婚葬祭など）を研究対象とする観光学などに着目し、非日常の活動に関する視点からロジスティクスとの相互関係の解明に取り組むたいと考えている。